

授 業 科 目 名	必修・ 選択別	単位数	対象 学年	学 期	曜・限	担 当 教 員
臨床薬理Ⅱ	必修	1単位	4	2		臨床薬理学・上村尚人

【科目名の英文】 Clinical Pharmacology and Therapeutics II

【授業の概要】

- ① 診療に必要な薬物治療の基本（薬理作用、有害事象、薬物投与計画）を学ぶ。
- ② 臨床現場において、根拠に基づいた医療<EBM>に基づいた適切な医学知見を得、その知識を活用し治療を決定する方法を身に付ける。

【具体的な到達目標】

《薬物治療の基本原則》

- ①薬物動態・薬力学について概説できる。
- ②主な薬物の有害事象を概説できる。
- ③薬物動態学的相互作用、薬力学的相互作用について例を挙げて説明できる。
- ④各臓器系統（中枢・末梢神経、循環器、呼吸器、消化器、腎泌尿器、血液、内分泌等）に作用する薬の薬理作用、適応、有害事象、薬物投与計画を説明できる。
- ⑤年齢や臓器障害、妊娠などに応じた薬物動態の特徴を考慮して薬剤投与の注意点を説明できる。
- ⑥薬理動態・薬物作用の個体差を説明できる。
- ⑦心理社会的背景を含めた全人的医療について説明できる。
- ⑧医療品開発において現状と今後求められる医薬品について概説できる。

《根拠に基づいた医療<EBM>》

- ①根拠に基づいた医療<EBM>の5つのステップを列挙できる。
- ②現場で遭遇した臨床上的の問題に関し、PICO (PECO)を用いた問題の定式化ができる。
- ③研究デザイン（観察研究（記述研究、横断研究、症例対照研究、コホート研究）、介入研究（臨床研究、ランダム化比較試験）、システマティックレビュー、メタ分析（メタアナリシス）を概説できる。
- ④データベースや二次文献からのエビデンス、診療ガイドラインを検索することができる。
- ⑤得られた情報の批判的吟味ができる。
- ⑥診療ガイドラインの種類と使用上の注意を列挙できる。
- ⑦診療ガイドラインの推奨の強さについて違いを述べるができる。

【授業の内容】

回	授業項目	授業内容	担当講座・教員	方法
1	臨床薬理①	治療学・臨床薬理学総論	臨床薬理学・上村	講義
2	臨床薬理②	臨床薬物動態学	臨床薬理学・甲斐	講義
3	臨床薬理 ③④⑤	EBM 実習	非常勤講師・名郷直樹	実習
4	臨床薬理⑥	創薬におけるトランスレーショナルリサーチ	臨床薬理学・長袋	講義
5	臨床薬理⑦	臨床薬理学と臨床心理学	臨床薬理学・関口	講義
6	臨床薬理⑧	こころと身体の結びつき	非常勤講師・須藤信行	講義
7	臨床薬理⑨	心身医学的治療	非常勤講師・須藤信行	講義
8	臨床薬理⑩	医薬品開発と臨床試験	臨床薬理学・上村	講義
9	臨床薬理⑪	ベッドサイドの臨床薬理学①	非常勤講師・原田和博	講義
10	臨床薬理⑫	ベッドサイドの臨床薬理学②	非常勤講師・原田和博	講義
11	臨床薬理⑬	薬物相互作用	臨床薬理学・和久田	講義
12	臨床薬理⑭	各病態における薬物動態	臨床薬理学・大谷	講義
13	臨床薬理⑮	薬物有害反応	臨床薬理学・中村	講義

<p><b>【アクティブラーニングの内容】</b> 一般的な講義に加え、実習の講義を取り入れ自分達で考える講義スタイルを取り入れている。</p>	<p><b>【その他の工夫】</b> 非常勤講師の講義を増やし多角的な視点で臨床薬理を学ぶように設定した。</p>
<p><b>【時間外学修の内容と時間の目安】</b> 「準備学習」教科書を用い講義の内容を事前に学習しておく（15h）。 「事後学習」配布資料や参考文献などの情報を整理し講義ノートで復習する（15h）。</p>	
<p><b>【教科書】</b> 臨床薬理学 第4版 医学書院 2017 ハリソン内科学第5版（原書第19版）メディカルサイエンスインターナショナル 2017</p>	
<p><b>【参考書】</b> ハーバード大学講義テキスト臨床薬理学原書3版 / 渡邊裕司 【丸善出版】2015</p>	
<p><b>【成績評価方法及び評価の割合】</b> 上記のすべての「具体的な到達目標」について、本試験またはレポートで評価する。なお、本試験（80%）およびレポート（20%）の合計得点が6割を超えたものを合格とする。ただし、欠席が8回以上（特別講義は4回以上の欠席）の場合は期末試験の受験資格を与えない。</p>	
<p><b>【注意事項】</b> COVID-19の対策として、Zoom講義と対面講義とを並行して行う。</p>	
<p><b>【備考】</b> 臨床薬理学は2年次の薬理学コースでも学修しているが、2年生で得た臨床薬理の知識を臨床に応用する方法を学ぶため、臨床実習前導入教育に含まれる。</p>	
<p>教員の実務経験の有無</p>	<p><input type="radio"/> 医師、薬剤師、臨床心理士</p>
<p>教員以外で指導に関わる実務経験の有無</p>	<p><input type="radio"/> 研究者（創薬におけるトランスレーショナルリサーチ）</p>
<p>実務経験をいかした教育内容</p>	<p>ベッドサイドの臨床薬理学、治療学・臨床薬理学総論、臨床薬物動態学、薬物相互作用、各病態における薬物動態、妊娠と薬、こころと身体の結びつき、心身医学的治療、薬理遺伝学、薬物有害反応、臨床薬理学と臨床心理学、創薬におけるトランスレーショナルリサーチ、医薬品開発と臨床試験、EBM 実習について講義を行う。</p>
<p>授業形式</p>	<p>対面</p>